

消防団長紹介



河内長野市消防団 団長 井上 裕史

本市は大阪府の南東端に位置し、東は金剛山地で奈良県、南は和泉山脈で和歌山県と接し、北を頂点とした三角形の市域を形づくっています。大阪府内で3番目に広い面積(109.63平方キロメートル)の7割は森林で、石川や石見川など河川沿いに平野が開け、北に向かって河内平野に続いています。市域の大部分は砂岩地帯、肥沃な土壌と内陸性の湿潤温暖な気候があいまって、稲や野菜、果樹の栽培に適しています。現在、本市を中心とする大阪南東部の緑豊かな山麓エリアを「奥河内」と名付け、「ちかくてふかい奥河内」をキャッチフレーズに、河内長野市の魅力発信、積極的な観光PRに取り組んでおります。市街地から少し離れると、滝畑ダムの上流に大小さまざまな滝が流れ、キャンプに最適。標高897メートルの岩湧山の山頂では、秋になるとスキの宝庫となり、気軽に山を歩くトレッキングのお客様に、四季を通じてたくさんお越し頂いており、特に、「山ガール」と呼ばれるカラフルなウェアをまとった女性のご利用も多くなっています。

本市における最初の消防組織は、現在の市の中心地である本町・古野町地区住民によっていた祭礼などの世話人団体である「新友会」が元祖であるといわれ、明治33年に発足し幹部3名総勢20名の消防組織が始まりとされています。以降町村合併に伴い警防団も再編成され、昭和29年今の河内長野市が誕生したと同時に河内長野市消防団が結成されました。令和3年4月1日現在の組織概要は、団長1名、副団長5名、10分団、団員239名、消防ポンプ自動車12台、小型可搬ポンプ積載車4台を配備しています。また、多くの山間部を抱えており、常備消防が配備されている市街地からはどこも遠方となることから地元消防団員が迅速に対応し、率先して災害活動を行い、地域住民の安心安全を守っています。どの分団も地元に着した団員が多く、郷土愛の精神で日夜訓練を重ねていることから地元住民の信頼も厚く、頼れる防災リーダーとして活躍しています。

私は、昭和57年2月に入団、平成23年4月からは分団長、平成29年4月からは副団長を歴任し、令和2年4月からは団長に任命されました。

消防団活動で記憶に残っている出来事は、副団長就任後、平成30年第62回大阪府消防操法大会において本市の団員が約半年間仕事が終わってからの厳しい訓練を経て、訓練の成果を見事に発揮し準優勝という見事な成績を収めてくれたことです。この出来事が各分団にも大きな刺激となり、団員の士気高揚が図れより一層河内長野市消防団の

絆が深まり一致団結することができました。しかし、消防団長就任後は、コロナ禍のなか災害は待たなしですが、各種訓練・行事が見送られ、災害対応への心配と歯がゆい思いでいます。

我々消防団員は地域の防災リーダーとして、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛の精神で、河内長野市民10万人の皆様の安全で安心な暮らしを築くために、日々活動しています。消防団員は火災出動のみならず、近年増加傾向にある地震、風水害といった大規模な自然災害発生時における救助活動、警戒巡視、避難誘導等に従事し、平常時には・自然災害警戒パトロール・地域の防災訓練参加など多岐にわたります。いつ起こるかわからない災害に対応するために今後の消防団においては、複雑かつ多様化する災害に適切に対応できるような知識と技術の習得が最重要であると考えております。全国的に消防団を取り巻く環境には厳しいものがありますが、河内長野市民の安心・安全のために、組織の充実・強化を図り、河内長野市消防団が、更に強固な組織となるように今出来る事に精一杯取り組んでまいりたいと思います。今後とも市民皆様の御支援・御協力を心からお願いいたします。